



学校だより

錦城の詩

平成25年(2013年)

3月11日(第19号)

明石市立錦城中学校

卒業に想う

校長 荒井 拓

我々教員にとって「卒業」「卒業式」という言葉ほど美しく、重みがあり、それでもって華やかでしかも哀愁を感じずにはいられない言葉はないと思う。それだけ、この日のために長い3年間を「教育」という立場で、子どもたちと共に過ごしてきた自負があるからだ(多少の反省や後悔も含んで)。そこには、喜怒哀楽といったものよりもっと深いものが流れていると信じていたい。

66回生に繋がる全ての人々が祝福とエールを送ってくれているはずだ。

心より「卒業おめでとう！」

さて、私自身が錦城中学校を卒業する昭和40年代には、ラヂオの深夜放送(当時は、深夜放送が全盛期だったように思う。「ヤングタウン」や「オールナイトニッポン」「チャチャヤング」などを親に隠れてイヤホンで聴いていた。しかも技術の時間に作製したちやちな鉱石ラヂオで)が悪友の間で流行っていた。卒業間際になって、荒井由美(現:松任谷由美・ユーミン)が駆け出しで、作った「卒業写真」が流れ始め、「ジーン」ときた感覚は今でも残っている。今でこそメジャーになって、この曲も歴史に残るものとなったが、当時はあまり知られておらず、余計、仲間内で口ずさみ広めあった。ちょっとこっ恥ずかしいけれど、この時期になると数々の卒業ソングとともに「やっぱり俺たちはこの歌やなあ」と同窓会でも話題になる。

悲しいことがあると 開く皮の表紙
卒業写真のあの人は やさしい目をしてる

街で見かけたとき 何も云えなかった
卒業写真の面影が そのままだったから

人ごみに流されて 変わっていく私を
あなたは時々 遠くで叱って

話しかけるように ゆれる柳の下を
通った道さえ今はもう 電車から見ただけ

あの頃の生き方を あなたは忘れないで
あなたは私の青春そのもの

人ごみに流されて 変わっていく私を
あなたは時々 遠くで叱って

あなたは私の青春そのもの

ちょっと、センチメンタルが過ぎましたか……。お許しください。

保護者の方は勿論、身近に錦中3年生がいる方は是非、色々な話しをしてやってください。普段シャイでぶっきらぼうで、聞いているのか聞いていないのか分からないようでも、きっと聞いているものです。特に、「卒業」に係わる話題は顔を挙げて受け止めると思っています。たとえ短くとも「卒業」を一緒に味わう時間を持つてくださることをお願いします。

明日が第66回卒業式。主役の3年生や在校生諸君とともに、素晴らしい卒業式を創ってくれるものと信じています。

春間近の校庭点描



昨年春満開だった校木「桜」
HPの学校紹介にあるものと同じ桜
つぼみが膨らみ始めています



同窓苑の「梅」紅白が素晴らしい



グラウンドの隅で咲く水色の花(名前不詳)